

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)	
未来向かって主体的に行動する児童の育成 変化する社会に対応するだけでなく、目指す未来の社会を思い描き、より良い変化に向かって主体的に行動する子どもを育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・少人数を生かし、一人一人が役割を持ち、活躍の場を得ることは誰もが認められ、安心して学ぶ環境づくりにつながった。 ・全校的な授業改善により児童が主体的な学びができるよう取り組んだが学力向上に向けては、引き続きの取組が必要である。 ・これまで以上に地域学習を取り入れることで故郷に愛着を持ち未来を創造する児童の育成を推進する必要がある。 	未来向かって主体的に行動する児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・探究する子 (自らの興味関心を大事にできる) ・学びを楽しむ子 (ヒト・モノ・コトと積極的に関わろうとする) ・行動する子 (持てる力を自分の為、人の為に発揮しようとする) ・宇川を語る子 (宇川のヒト・モノ・コトについて体験とともに語れる) 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価
学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	個別最適な学び・協働的な学びの創造を推進する。 ・児童を教育活動や学習課活動の当事者にする。 ・知識を生活つなぎ、モノの見方・考え方を広げることで「学ぶ」ことのおもしろさを教師と児童で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構想を児童と共有する授業、学習過程において児童が学び方を選択する場面がある授業の例を示すとともに試行を奨励し (年間1教科・1単元以上)、校内研修の場で交流する。 ・活用例を交流することで家庭学習におけるICT活用のイメージを共有し活用頻度を高める。 ・モノ・コトとともにかかわるヒトに視点を当てて宇川を教材化する。 	○児童と学習活動の目的を共有し、学習過程において児童が主体的に判断し、選択する場面を設定することで、子どもが学習の主体となる場面が増えた。 △教科・領域に限らない汎用性のある学び方を身に付けられるよう教材とのおして情報整理・情報活用などの力を意識した授業づくりが必要である。 △体験活動(ヒト・モノ・コトとのおして)が「総合的な学び」として深い学びとなっているか、という視点から学習活動の在り方を見直す必要がある。 ○ICT利用については問題や作品等の発表のための提示は児童にとっても教職員にとっても通常となっている。 △教科書を資料として活用できる力を付けることで協働的な学びを創造していきたい。 ○ヒトをとおしてモノ・コトとであう機会を積極的に増やすことで「当たり前にあるもの」を見つめる新たな視点を獲得することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が児童一人一人に寄り添い、自発性を重んじた学習指導がなされていた。 ・少人数でも各学年授業の形態を工夫し、意見の交流をさせ、学習が深められていた。 ・少人数を生かし、児童全員で授業に取り組み積極的に学んでいた。 ・放課後学習での児童の様子に触れ、低学年から時間いっぱい学習に集中する力が育っていると強く感じた。 ・ICTを積極的に活用し、視覚的なアプローチが児童の学習理解の一助となっていた。 ・最新の教育機器を活用した授業に取り組むことができていた。 ・地元の人々を介して宇川の生態系及び一次産業等を学ぶ機会を得ていた。

<p>生徒指導</p>	<p>児童にとって安心できる居場所（人と場）をたくさん創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童個々の特性や願いを大事にする。 ・児童を学校づくりの当事者にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数であることを生かし、個々が目指したいと思っている方向について対話し、それぞれが力を発揮できる環境を整える。 ・人権教育を基盤として、必要な場面で他者に頼ることを「良し」とする機運を高める。 ・児童が主となる活動については推進の方向性や取り組み方について児童会と連携する。(役員との懇談) ・キャリア教育の観点から取組や行事等、機会を生かしてその場において果たすべき役割、期待される働き等について語る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の日常的な様子をよく見ているので変化に対して的確に見取ることができている。 ○教室（担任）、保健室（養護）、サポーター、用務員等、児童が個々に安心して思いを伝えることができる場所をもっている。 ○教員が解決するのではなく、児童が課題意識を持ち児童が解決のための一歩を踏み出す経験を支援できつつある。 ○児童会活動など教員の指導目的をもとに児童に方法を提案しともに決定するようにしてきた。それによって取組過程に児童の思考を潜らせる場面が生まれ、取組の充実につながった。 <p>△引き続き、目的や価値観を共有しながら課題の本質を捉えた指導を心掛ける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館使用のルールを児童が提案するなど、問題が起きた時、児童に考えさせ、誰もが納得する応えに教師が導いた。 ・少人数なので一人一人の児童に目が行き届き、個人や集団の課題に十分に手が差し延べられている。 ・運動会の競技運営や学習発表会等の様子から、課題や困難がある子に対し、児童相互の支え合いができています。 ・自分の思いや考えを伝える力は大切に育てていかなければならない。統合後大人数の中に入れば更に大切な力となる。
<p>健康・安全</p>	<p>児童に自他の健康・安全を守るための知識を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び児童へ早期の情報提供をする。 天候、病気、交通安全 ・対応策を児童とともに学び、考える。 課題を探究学習のきっかけにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校に係ることを中心に児童に対して必要な情報提供や適切な指導ができた。 <p>△「心理的安全」が保障されていることの大切さとそのための具体策として約束やルールの役割を考えさせるなど、日常の指導課題とつないだ指導を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に児童の安心・安全を考え、情報提供や指導している。 ・登下校の時、行政や地域の方の見守りにより安全が確保されていた。 ・学校では生活点検を行い、健康安全に対する指導が適切に行われていた。 ・中間マラソンを実施し、体力の向上に努められていた。 ・次年度は低学年でまだ体力が不十分な子ども達も遠距離バス通学になる。学校での学習や遊びが十分できるよう物理的な配慮が欲しい。

<p>人権教育</p>	<p>教育活動において子どもも人権を守る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校朝会で「子どもの人権」について話す。 ・講和等において「人権」が日常生活とつながっていることに気づかせる。 ・学校づくり、生活づくりに児童が参画させる。(児童会本部役員との協議 等) 	<p>○児童個人や学級・学校集団の状況を児童と共有するところから課題や具体策を考え取り組むことができた。</p> <p>△人権教育が「やさしさ」「思いやり」教育で終わらず、学年に応じて人権認識を高め、身の回りにある「偏見」や「不平等」などに気付く人権感覚の醸成を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「普通」「当たり前」を見直す ・社会モデルと個人モデル <p>△「負の感情(しんどい、助けて、悲しいなど)」を表現できる言葉をもち、必要な場面で使える力を育てる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童間で喧嘩することもあるが互いのことを思いやり、日常生活に多くの日々を楽しく過ごせている。 ・目立ったいじめはなく全校児童が仲良く学校生活を営むことができています。けれど、嫌なことがあると思っている児童もあり、具体的な身の回りの課題として捉える力、考える力をさらに身に付けさせていく必要がある。
<p>開かれた学校づくり (地域とともにある学校づくり)</p>	<p>学校の教育目標を共有しながら学びや出会いが生まれる場を地域に創る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の拠点施設を中心に地域に出かけ、地域の方との会話や対話を重ねることで教職員が「ヒト」に学ぶ経験をする。 ・新コミュニティに係り今後の地域づくりの構想を共有するし、学校の教育活動との協働を図る。 	<p>○地域に係る学習、地域の方と協力した学習など学年に応じて取り組めた。</p> <p>○すべての学級において地域の方と出会いを「宇川」を見つめ直す機会として大事にしながら授業づくりを行い、児童が宇川のヒト・モノ・コトに関わるエピソードをより多くもてるよう働きかけることができた。</p> <p>○学習発表会を節目として、地域に学びを報告したり、関係者会議の場で教育活動のねらいを説明しながら意見交換したりすることで教育活動への理解と協力を継続できている。</p> <p>△新コミュニティ事務局との連携を進めることでより地域とともに学ぶ環境を整えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期はじめの「学校だより」によって宇川小学校の指導方針を地区の住民に明確に伝えられていた。 ・学校はホームページなどを通じ、積極的に地域に発信している。 ・地域に出かけ、学年に応じて地域を知る学習がしっかり取り組まれる等、子ども達は地域と関わる機会を多く与えられていた。 ・地域の人を講師に招いて地元の産業や住んでいる人の思いを聴き、地元を見つめる機会がしっかり設定されていた。 ・通学する学校が地元から離れても地元を見つめる機会が与えられるよう工夫されたい。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>令和7年度末をもって宇川小学校は閉校となるため、今年度評価を丹後小学校の教育活動に生かしてもらえよう、丹後学園の関係会議を通して引継ぎを行う。</p>			